

特殊蚕品種の飼育について

——— 小谷田式特殊蚕品種の製造 ———

(多摩シルクライフ21研究会) 小谷田昌弘・難波多美子・○ 境京子

1. 新しい絹をめざす

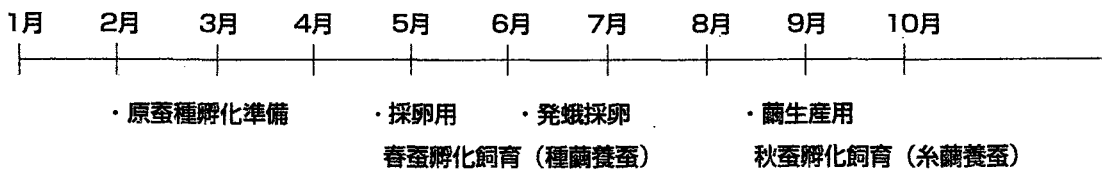
1991年、多摩シルクライフ21研究会の小此木エツ子先生らは、農工大在職中から蚕品種改良に関する研究に着手、この時から「青熟改良種」に取り組むこととなります。1995年、当研究会発足と同時にその研究も引き継がれることになりました。翌年、生絹開発のための蚕品種として「青熟×支25」、古代裂復元用として「四川3眠×支25」の二種類を継続して取り組むことになりました。1997年には、「青熟改良種」・「四川3眠改良種」を小谷田氏のもとで本格的な種繭飼育に入ることになりました。

2. 小さな養蚕・やさしい養蚕・豊かな養蚕

小谷田家は、代々稚蚕飼育を行う養蚕農家でした。現在は一回に飼育できる蚕は4万頭を限度としています。小谷田家の種とりから養蚕までを支えてきたのは、地域住民と都市住民でつくる「由木の農業と自然を育てる会」・ユギファーマズクラブの有志たちです。誰でもいつでも手伝い自由、途中参加可、見学自由というのが小谷田家の養蚕です。

3. 飼育作業

表[1] 年間の作業の流れ



(1) 種とり

1999年の春、12名のスタッフが集まってきました。素人集団がはじめて取り組む「種とり」です。学習とこれまでの養蚕の記憶を辿りながら手探りの作業でした。掃立から上簇までの管理は小谷田夫妻におまかせするとして、「種とり」を集団で行うにはマニュアルが必要でした。秋までの一連の作業の経験に基づいて「小谷田式」のマニュアルを作成しました。今年(2000年)は、全員がマニュアルにしたがって作業の流れを確認することからはじまりました。あとはスケジュール表を見ながら自主的に集まって作業をしました。

(2) 養蚕

春は種とり用の原種を、秋には改良種の養蚕を行っております。

表[2] 飼育期間(全齡桑飼育)

年	蚕品種	青熟 (原種)	四川3眠 (原種)	支25 (原種)	青熟 (改良種)	青熟 (改良種)	青熟 (改良種)	四川3眠 (改良種)	四川3眠 (改良種)
1999	養蚕	春	春	春	—	晩秋	晩々秋	晩秋	晩々秋
	期間 (日)	23	22	25	—	21	22	21	21
2000	養蚕	春	春	春	春	晩秋	—	晩秋	—
	期間 (日)	24	22	24	24	22	—	21	—

表[3] 飼育条件(常温飼育)

令	項目	温度 ℃	湿度 %	メモ
稚蚕(ケゴ~2令)		28	80~90	30℃をこえないこと。 湿度を保つため飼育箱の四方に水を含ませた新聞紙をおく。
壮蚕(3令~5令)		22~25	50~60	この期になるとエビラ、飼育台に移して密集をさける。 室内の温・湿度の調整にはストーブ、床の水まき等を行う。
営繭		22~23	50~60	ストーブ・扇風機を使用してコントロールする。

※湿度は目標%であってこれに近づけるため努力している

4. まとめ

● 蚕の飼育は難しくなく稚蚕の扱いも「現行」とほぼ同じです。壮蚕期の摘桑、給桑の労力も半分ぐらいになり楽です。上簇は三種とも特徴があるが特に面倒なことはありません。以上のことから小さい蚕の養蚕は、携わった人たちの意見も含めると高齢者や女性に向いているのではないかと考えられます。

● 種とりに関して、マニュアルを作成して活用したことは、大勢でも無責任になることなく、しかも楽しくやれることを確かめることができました。

● 蚕について、今年、原種支25が上簇時扁平に糸をはく蚕が目についたこと。春に飼育した青熟改良種の糸が笹色になっていたこと。同じ種を何代か繰り返していくと変化すると聞いていましたが、4年間同じ種でつづけてきた結果ではないかと思いました。また、原種がもつ生絹としての確かさを改良種に求めて努力しておりますが、いまだ成果を見るにいたりません。私たちの課題は大きく、更に継続し試行錯誤を繰り返していくことになると思います。